

原色日本甲虫図鑑 III. 500pp., 保育社, 大阪.

Waterhouse, C. O., 1878. On the different forms occurring in the Coleopterous family Lycidae, with descriptions of new genera and species. Transactions of the Entomological Society of London, 1878: 95-118.

Waterhouse, C. O., 1879. Lycidae, Illustration of typical specimens of Coleoptera in the collection of the British Museum, Part I, London. 83 pp.

(2012年9月7日受領, 2012年9月13日受理)

【短報】対馬におけるコガシラミズムシ科4種の記録

従来, 長崎県対馬のコガシラミズムシ科は, コガシラミズムシ *Peltodytes intermedius* (Sharp, 1873) のみの生息が確認されていた (Vondel, 1992). 筆者らは初記録と思われる3種を含むコガシラミズムシ科4種を対馬において採集しているので報告する.

1. コガシラミズムシ *Peltodytes intermedius* (Sharp, 1873)

2頭, 対馬市美津島町鶏知, 11. IX. 2005, 緒方健採集・保管; 20頭, 対馬市美津島町浅茅山, 6. VIII. 1994, 吉富博之採集, 愛媛大学ミュージアム保管.

2. シナコガシラミズムシ *Peltodytes sinensis* (Hope, 1845)

2♂1♀, 対馬市上県町志多留田ノ浜, 10. IX. 2005, 上手雄貴採集・保管; 5頭, 同所, 緒方健採集・保管. 前種に似るが, 頭頂に1対の暗色紋をそなえること, 後基節板後縁の突出が弱いこと, 雄交尾器の形態などにより比較的容易に区別することができる.

3. チビコガシラミズムシ *Haliplus (Haliplus) simplex* Clark, 1863

1♂, 対馬市上県町志多留田ノ浜, 10. IX. 2005, 上

手雄貴採集・保管; 2頭, 同所, 緒方健採集・保管.

日本からは *H. minutus* Takizawa, 1931 として記録されていたが, Vondel et al. (2006) によって本種のシノニムとされた. 和名に関しては, 複雑な経緯があり, Takizawa (1931) は *H. minutus* を大陸の *H. simplex* とは区別して記載した上で, *H. minutus* をチビコガシラミズムシ, *H. simplex* をチョウセンコガシラミズムシとしている. 中根 (1985, 1987) は, *H. japonicus* Sharp, 1873 にチビコガシラミズムシをあて, *H. minutus* に対しては, エゾチビコガシラミズムシという和名を提唱している. また, 佐藤 (1984) および佐藤・吉富 (2005) は, *H. minutus* をチビコガシラミズムシ, *H. japonicus* をクビボソコガシラミズムシとしている. ここでは, 佐藤・吉富 (2005) に従い *H. simplex* に対しチビコガシラミズムシの和名で記録する. 日本産の同属他種とは, より小型 (2.5-2.7mm) で上翅の肩部が側方へ張り出すこと, また雄交尾器の形態などにより区別することができる.

4. クロホシコガシラミズムシ *Haliplus (Liaphlus) basinotatus* Zimmermann, 1924

5頭, 対馬市美津島町浅茅山, 6. VIII. 1994, 吉富博之採集, 愛媛大学ミュージアム保管.



図1-4. 対馬産コガシラミズムシ科. 1, コガシラミズムシ; 2, シナコガシラミズムシ; 3, チビコガシラミズムシ; 4, クロホシコガシラミズムシ.



図5. 田ノ浜の生息環境 (2005年9月10日撮影)。

今回、対馬から4種のコガシラミズムシ科を記録した。日本での従来の分布域を見ると、コガシラミズムシは、北海道、本州、四国、九州において現在でも比較的見ることができる。シナコガシラミズムシは、トカラ中ノ島以南の琉球列島での生息が確認されている。チビコガシラミズムシは、北海道および本州から確認されているが、本州ではかなり稀な種のように、最近の採集例は見当たらない。クロホシコガシラミズムシは本州、四国、九州において確認されているが、比較的稀な種である。このように、日本ではあまり分布域が重ならない4種が対馬において確認できたことは、大変興味深い。世界的な分布を見てみると、4種ともにユーラシア大陸に広く分布しており、朝鮮半島からも記録されている (Vondel, 2005)。対馬と大陸との関連性を裏付ける証拠のひとつとして重要ではないかと考えている。

末筆ながら、本稿をご校閲いただき、対馬のコガシラミズムシ科に関するご助言をいただいた福岡県保健環境研究所の中島淳博士および対馬のコガシラミズムシ科の記録に関してご教示いただいたE-アシストの今坂正一氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 中根猛彦, 1985. 日本産ヒメコガシラミズムシ属の種の再検討. 北九州の昆虫, 32(2): 61-67, pls. 6-7.
- 中根猛彦, 1987. 日本の甲虫 [80], こがしらみずむし科. 昆虫と自然, 22(11): 26-30.
- 佐藤正孝, 1984. 日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書, 1. 甲虫ニュース, (65): 1-4.
- 佐藤正孝・吉富博之, 2005. コウチュウ目(鞘翅目) Coleoptera. 川合禎次・谷田一三(編), 日本産水生昆虫-科・属・種への検索, pp. 591-658. 東海大学出版会.
- Takizawa, M., 1931. The Haliplidae of Japan. Insecta Matsumurana, 5(3): 137-143.
- Vondel, B. J. van, 1992. Revision of the Palaearctic and Oriental species of *Peltodytes* Régimbart (Coleoptera: Haliplidae).

Tijdschrift voor Entomologie, 135: 275-297.

Vondel, B. J. van, 2005. Haliplidae. Pp. 20-86. In: Nilsson A. N. & B. J. van Vondel (eds). World Catalogue of Insects, Vol. 7. Amphizoidae, Aspidytidae, Haliplidae, Noteridae and Paelobiidae (Coleoptera, Adepaga), Apollo Books, Stenstrup, Denmark, 171 pp.

Vondel, B. J. van, M. Holmen & P. N. Petrov, 2006. Review of the Palaearctic and Oriental species of the subgenus *Haliplus* s. str. (Coleoptera: Haliplidae: Haliplus) with descriptions of three new species. Tijdschrift voor Entomologie, 149: 227-273.

(上手雄貴 467-8615 名古屋市瑞穂区萩山町
1-11 名古屋市衛生研究所衛生動物室)
(緒方 健 818-0135 太宰府市向佐野 39
福岡県保健環境研究所環境生物課)
(吉富博之 790-8566 松山市樽味 3-5-7
愛媛大学農学部環境昆虫学研究室)



原田晴康・滝沢春雄(2012)日本における侵入害虫タバコノミハムシの発生. 日本応用動物昆虫学会誌, 56(3):117-120.

新北区起源でヨーロッパでも分布を拡大している、ナス科植物の重要害虫であるタバコノミハムシ *Epitrix hirtipennis* (Melsheimer) が日本初記録として関東地方の1都6県で確認された報告である。今回は2011年の分布状況を報告しており、関東平野のもっぱら小規模の家庭菜園で確認され、ジャガイモ、ナス、ホオズキ、ワルナスビ、およびトマトから得られているという。すでに広域に広がっているようで、さらなる分布拡大の動向に注目する必要があるため、ここに紹介する。

本種は一見するとテンサイノミハムシ *Chaetocnema picipes* Stephens に似るが、赤褐色の色彩と上翅の密な短刺毛によって容易に区別できるという。

(愛媛大学ミュージアム 吉富博之)